

# 都市計画マスタープラン・ 立地適正化計画について

---

## 第2回 北広島町都市計画審議会

### 目次

1. 第1回都市計画審議会の振り返り・主な意見
2. 住民アンケート（速報）
- 3. 全体構想（基本理念・基本目標・将来都市構造）**
4. 全体構想（まちづくりの方針）

# 1. 今回の内容（第1回都市計画審議会からの更新点）

## ■第1回都市計画審議会からの更新点

【前回】第1回都市計画審議会

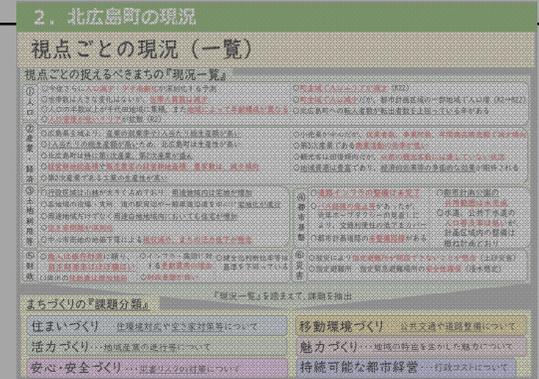
⇒「**現況＋上位関連計画**」を踏まえて課題を整理

まち全体（マクロ）

まち全体の観点から、現状及び将来見通し他都市との比較を通じた分析等を行った

地域別（ミクロ）

地域に着目して、現状及び将来見通し等の分析を行う



【今回】第2回都市計画審議会

住民アンケート（速報）による課題整理（仮）

今後実施する**中高生アンケート**により、若者の意見を反映する

「**現況＋上位関連計画**」の課題を踏まえて

全体構想（仮）

⇒都市計画マスタープランにおける「**基本理念・基本目標・将来都市構造・まちづくりの方針**」を設定する

➡社会経済情勢の変化等に対応した見直し・検討や、まちづくりに関わる各分野の方針を設定

現段階における計画の方向性や内容等について協議・意見交換

## 2. まちづくりの基本理念

### ■課題等を踏まえた“基本理念”の設定【案1】

利便性の高いまちなかと繋がり、  
住み慣れた地域でゆったりと暮らせるまち

#### 【主旨】

多様な地域資源と高速道路をはじめとする交通アクセスの強みを活かし、利便性の高い役場・支所周辺や周辺市町と地域の連携を深めることで、新たな交流や経済の活性化を図ります。一方で、住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域の基盤をしっかりと整備し、日常生活の安全性や快適さを確保します。

広域的な繋がりを強化しながら、地域の魅力を維持・向上させ、人口減少や少子高齢化、災害といった課題に対応し、持続可能で誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。

# 3. まちづくりの基本目標

## ■課題や基本理念等を踏まえた“基本目標”の検討

目標  
1

誰もが便利で快適に暮らせる生活環境の形成

反映

まちづくりの方針

土地利用

施設整備

環境

秩序ある適正な土地利用の誘導、必要な都市機能の確保、安心して移動できる環境づくりなど、生活基盤施設の整備・維持により、住み慣れた地域で、誰もが便利で快適に住み続けられる生活環境の形成を目指します。

目標  
2

災害に強く、安全・安心に暮らせるまちの構築

反映

まちづくりの方針

防災

昨今、頻発・激甚化する洪水や土砂災害等の自然災害による被害を軽減し、住民の生命・財産を守るため、ハード・ソフトの両輪により、効果的・効率的に防災・減災対策を推進し、災害に強く、安全・安心に暮らせるまちの構築を目指します。

目標  
3

経済活動を支えるインフラの充実

反映

まちづくりの方針

土地利用

施設整備

中国縦貫自動車道および中国横断自動車道広島浜田線等の優れた立地条件を活かし、ポテンシャルの高い地域への新たな産業集積を促進し、製造業や流通業等の経済活動を支えるインフラの充実を目指します。

目標  
4

豊かな地域資源を保全・活用したまちづくり

反映

まちづくりの方針

環境

景観

観光

緑あふれる山地や豊かな田園など、本町の豊かな地域資源を保全するとともに、魅力を活かしたまちづくりを進めることで、さらなる地域の価値を高め、交流人口の拡大に努めます。

## 2. まちづくりの基本理念

### ■課題等を踏まえた“基本理念”の設定【案2】

地域のつながりを大切にし、  
自然と暮らしを守るまち

#### 【主旨】

本町は、地域ごとに多様な特性を持つ広がりのあるまちです。本計画では、地域ごとの役割を明確にし、それぞれの強みを活かしながら、住み続けられる環境を整えます。

既存のインフラや公共施設を有効に活用し、地域ごとの特性を活かした暮らしやすさの向上を図ります。また、里山や農地と共生しながら、地域の魅力を守り育てることで、持続可能なまちづくりを進めます。

住民同士のつながりを大切にし、安心して暮らせる仕組みを整えることで、将来にわたって活力のある地域を実現します。

# 3. まちづくりの基本目標

## ■課題や基本理念等を踏まえた“基本目標”の検討

目標  
1

誰もが便利で快適に暮らせる生活環境の形成

反映

まちづくりの方針

土地利用

施設整備

環境

秩序ある適正な土地利用の誘導、必要な都市機能の確保、安心して移動できる環境づくりなど、生活基盤施設の整備・維持により、住み慣れた地域で、誰もが便利で快適に住み続けられる生活環境の形成を目指します。

目標  
2

豊かな地域資源を保全・活用したまちづくり

反映

まちづくりの方針

環境

景観

観光

緑あふれる山地や豊かな田園など、本町の豊かな地域資源を保全するとともに、魅力を活かしたまちづくりを進めることで、さらなる地域の価値を高め、交流人口の拡大に努めます。

目標  
3

災害に強く、安全・安心に暮らせるまちの構築

反映

まちづくりの方針

防災

昨今、頻発・激甚化する洪水や土砂災害等の自然災害による被害を軽減し、住民の生命・財産を守るため、ハード・ソフトの両輪により、効果的・効率的に防災・減災対策を推進し、災害に強く、安全・安心に暮らせるまちの構築を目指します。

目標  
4

経済活動を支えるインフラの充実

反映

まちづくりの方針

土地利用

施設整備

中国縦貫自動車道および中国横断自動車道広島浜田線等の優れた立地条件を活かし、ポテンシャルの高い地域への新たな産業集積を促進し、製造業や流通業等の経済活動を支えるインフラの充実を目指します。

# 4. 将来都市構造

## ■課題や基本理念等を踏まえた“将来都市構造の基本的な考え方”の整理

### 《将来都市構造の基本的な考え方》

#### 生活環境の向上

- ✓ 自然との共生・地域ごとに必要な都市機能を確保による **生活の質の向上**
- ✓ 住み慣れた地域で地域ごとの魅力を活かし、ゆとりと安らぎを感じながら安心して住み続けられる **身近な生活環境の形成**

#### 産業活力の向上

- ✓ 本町の基幹産業である農業とICを活かした **ものづくり・流通産業**を中心とした **2次産業の強み**がある

#### 観光振興の推進

- ✓ 八幡高原や聖湖等の自然を活かしたアウトドアや、壬生の花田植等の歴史・文化や、スキーをはじめとしたスポーツなど、 **本町の強みや魅力を活かした取組を進めている**

ゾーン区分・拠点・軸の設定



将来都市構造

# 4. 将来都市構造

## ■都市のゾーン区分設定

ゾーン：拠点や軸設定の検討の前提となり、現状の地勢や土地利用が一定のまとまりをもつ空間を設定する。

ゾーン名	設定の考え方
まちなかゾーン	千代田都市計画区域を基本とし、生活サービス機能が集積し、町民の生活を支えるだけでなく、 <u>広域的な連携・交流の核となるゾーン</u> であることから“まちなかゾーン”と設定する。
ふるさとゾーン	旧支所周辺など、これまでの <u>地域のつながり</u> を大切にしつつ、暮らしやすさを維持・向上を図ることから、“ふるさとゾーン”と設定する。
さとやまゾーン	農地や山林と集落が共生するエリアとして、 <u>自然と調和した暮らしや地域資源を生かした持続可能な生活を目指すエリア</u> として“さとやまゾーン”として設定する。

※ゾーン名は仮設定

# 4. 将来都市構造

## ■都市のゾーン区分設定

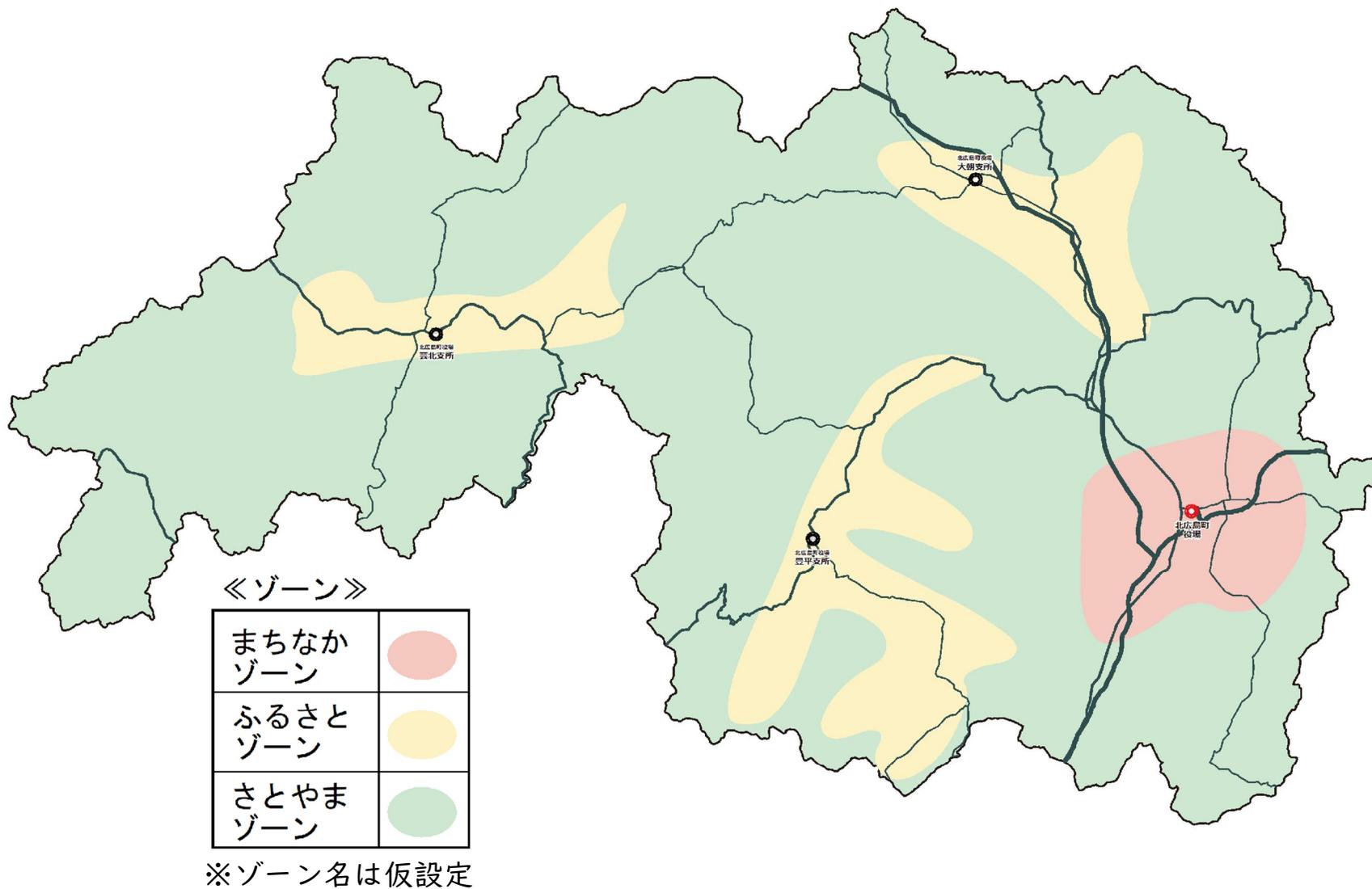


図 都市のゾーン区分図

# 4. 将来都市構造

## ■ゾーン区分を踏まえた“拠点”設定

**拠点：**「軸」によって形成される都市の骨格を基盤に、日常生活や都市活動に必要な機能として、生活機能、産業機能、交流機能等を集積する市街地、既存集落等を設定する。

### 中心拠点〔1箇所〕

《位置づける地域》  
北広島町役場周辺地域

病院、商業施設、公共施設など、日常生活に必要な生活サービス機能が集積する本町の中心的な役割を担うエリアとして、町役場本庁舎周辺の市街地を位置付け、さらなる生活サービス機能の集積と生活基盤の強化を図る。

### 地域拠点〔2箇所〕

《位置づける地域》  
芸北支所周辺地域、豊平支所周辺地域

地域特性の活用や生活基盤の整備により、芸北地域、豊平地域の地域住民の日常生活を支える拠点を形成する。

### 活力拠点〔1箇所〕

《位置づける地域》  
大朝支所周辺地域

既存の生活サービス機能の集積を活かし、大朝地域周辺住民の日常生活を支えるとともに、大朝ICや空家等の既存ストックを活かした町外からの移住者や交流人口の拡大を促し、本町全体の活力創造を担う拠点を形成する。

## 4. 将来都市構造

参考) 各地域の中心(役所・支所)から500m圏域の人口・都市機能施設数

人口

(人)

	千代田地域	大朝地域	豊平地域	芸北地域
令和2年	738	399	103	93
令和22年	 654	 283	 58	 63

都市機能施設数

(ヶ所)

	千代田地域	大朝地域	豊平地域	芸北地域
令和6年	20	19	4	9

※都市機能施設：医療施設(病院、診療所など)、商業施設(スーパー、コンビニなど)、金融施設(銀行、郵便局)、教育施設(小学校、中学校、高校)、行政施設(役場・支所、公民館など)、子育て支援施設(こども園、保育園)福祉施設(老人福祉施設など)、交通関連施設(タクシー会社)

## 4. 将来都市構造

【参考：地域拠点のイメージ図】

### 地域特性の活用

中心拠点や広島市へのアクセス性が高い。また、道の駅やスキー場等の観光資源を有しており、町外からの来訪者も多い。

### 生活基盤の整備

支所周辺に地域づくりセンターや事業所や商店等が立地。各拠点の連携や拠点へのネットワークの維持・向上を図る。

芸北・豊平支所周辺地域を「**地域拠点**」とする

支所周辺を拠点として

地域全体の生活を支える

## 4. 将来都市構造

【参考：活力拠点のイメージ図】

**産業**による活力創造

大朝工業団地へのさらなる企業誘致

**移住**による活力創造

大朝ICや空き家等の既存ストックを活かした、町外からの移住者や交流人口の拡大

大朝支所周辺地域を「**活力拠点**」とする

大朝を拠点として

本町全体に「活力」の普及を図る

# 4. 将来都市構造

## ■ゾーン区分を踏まえた“拠点”設定

拠点：「軸」によって形成される都市の骨格を基盤に、日常生活や都市活動に必要な機能として、生活機能、産業機能、交流機能等を集積する市街地、既存集落等を設定する。



### 産業拠点〔4箇所〕

《位置づける地域》

工業・流通団地

製造業や流通業等の産業の中心的な役割を担うエリアとして、産業基盤の強化を図る。



### レクリエーション拠点〔8箇所〕

《位置づける地域》

道の駅、大規模な公園、スキー場等

地域の人たちや本町を訪れる人たちが交流する中心的な役割を担うエリアとして、道の駅、大規模な公園、スキー場等を位置付け、観光業と農業の活性化につながる基盤の強化を図る。

# 4. 将来都市構造

## ■将来都市構造を担う“軸”設定

■軸 : 機能的な都市構造の基盤を形成する道路からなり、広域、都市内、地域間の連携を強化する主要な動線を設定する。

### ● 広域連携軸

《対象》

中国縦貫自動車道、中国横断自動車道広島浜田線

広域都市圏と広域的な連携を図るための軸として、中国縦貫自動車道と中国横断自動車道広島浜田線を位置づけ、機能維持と交通結節機能の強化を図る。

### ● 都市内連携軸

《対象》

主要幹線道路

近隣市町等への移動を可能とする連携軸として、主要幹線道路を位置付け、機能の維持・強化を図る。

### ● 地域間連携軸

《対象》

県道、町道

町内の各拠点間等の連携軸として、主要な地方道や町道等を位置付け、機能の維持・強化を図る。

# 4. 将来都市構造

## ■将来都市構造

「将来都市構造の基本的な考え方」「ゾーン区分」「拠点」「軸」を踏まえた  
将来の都市構造

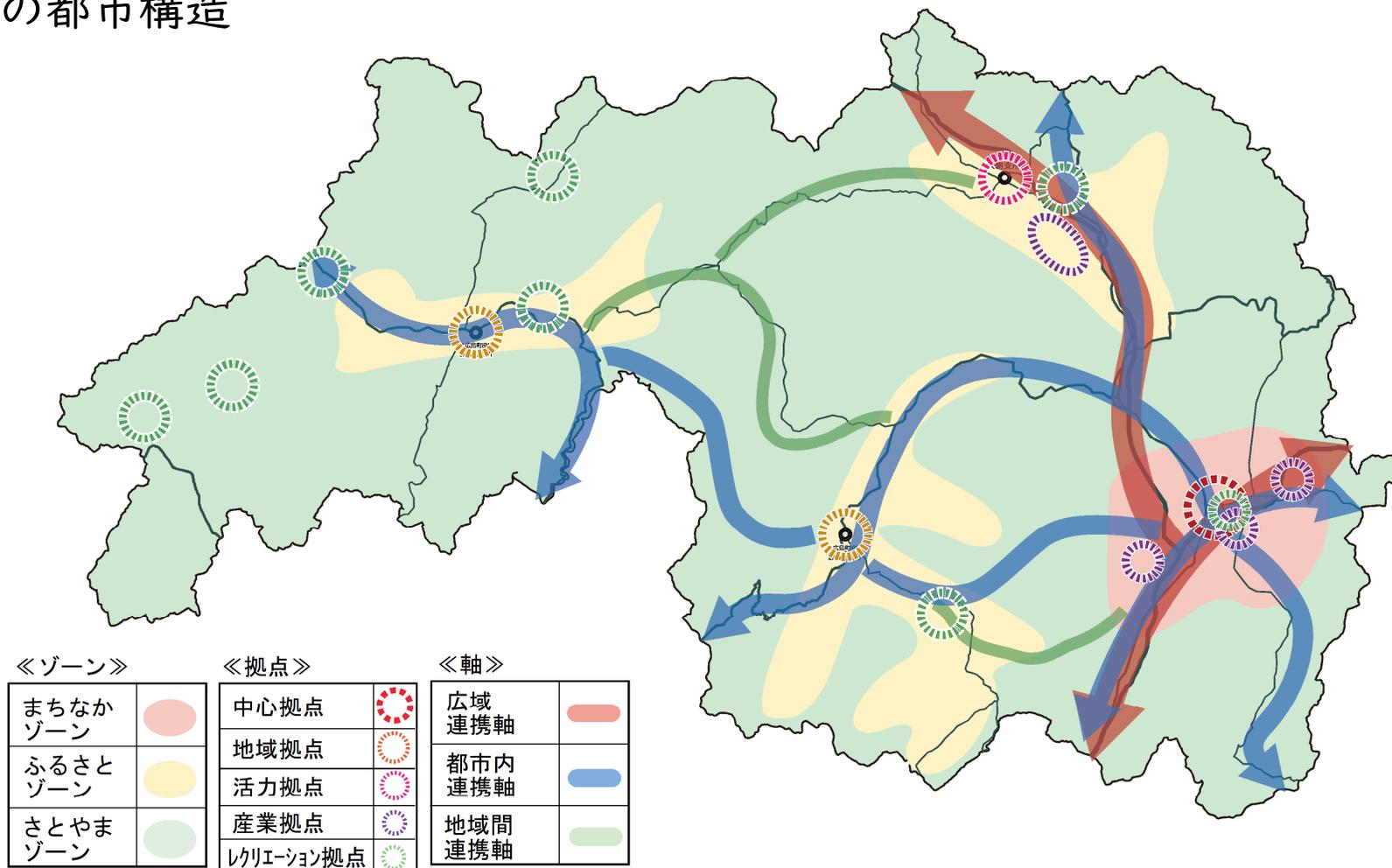


図 将来都市構造図